

# あとがき

思えばTCSを始めたのは、約20年前になります。この間大きな流れがありました。

私が受けた大腸内視鏡挿入法の研修の順番としては、次のようなものでした。

- ① 従来のループ形成解除法
- ② 軸保持短縮法
- ③ 二木会流ループ形成解除法（二木会とは、松島クリニックの鈴木康元先生が始められた大腸内視鏡挿入法の勉強会の名称です）

一方、研修医や他の先生方への指導法は、次のように変化してきました。

- A. 挿入困難になったところで介助する研修法
- B. マンツーマン法で、直腸に挿入した直後から決まったパターンで挿入し、パターンから外れたら交代する研修法
- C. ビデオカンファレンス法（二木会での勉強スタイルです。挿入ビデオを元に指導する方法）
- D. ブログで動画を使い不特定多数の方へのトレーニング
- E. 本による写真と活字でのトレーニング（説明不足の分はDVDで補う）

3つの挿入法を習得した過程について少し記します。まず、従来のループ形成解除法の研修は、大阪の岸和田徳洲会病院で廣岡大司先生にお教えいただきました。

当時の私のテクニックといえば、道なりに行けるところまで挿入して進まなくなったらアップアングルで引っかけて引いてくるという簡単なものでした。決して器用な方でない私は1例目を成功するまでに約8カ月を要しました。

研修の過程で精神的に追い込まれたこともあります。仕事から帰宅して、風呂の天井のしずくをみながら独り言をいっている私を、妻がみて心配していました。「腸はあんなに曲がりくねっているのだ。私が入らないのは不思議でも何でもない。あんなに曲がっているなかを、まっすぐに挿入できる周りの先生の方がおかしいのだ」と、今思えば半ばうつ病にかかる寸前でした。今では入らない方が不思議なくらいになっています。あのとき苦しんだ思い出が、より効率的な研修法を開発するきっかけになっていると思います。

そんな私でしたが、兄弟弟子たちにも恵まれてESDで高名な豊永高史先生（現神戸大学准教授）の御指導のもと、約2年間で何とか10分程度で挿入できるまで上達できました。

その後、福岡徳洲会病院に帰ったのですが、今思えば自分1人の検査を通しては2年間ではとんど成長できませんでした。

そんななか、熊本県の服部胃腸科で勤務する機会を得ました。そこで初めて軸保持短縮法の研修を受けたのです。当初はERCPの研修が目的だったのですが、次第にTCSの魅力に引き寄せていきました。周りの先生からの評価は、「まだ幼稚園児みたいなものだな」というものでした。「そのようにいわれるのではなく成長できる余地があるということかな」と、酷評されながらも何だか嬉しく思う自分がいました。

服部胃腸科の服部正裕院長や熊本地域医療センターの明石隆吉先生の厳しくも暖かい御指導のもと、その前の2年間とは全く違い、毎日の検査が発見の連続でした。

服部先生は「私たちが10年かけてつくったものを若い先生たちは2～3年で習得していく」と、研修に来ては成長して巣立っていく医師をみて半分嫉妬しながらも、惜しみなくお教えいただきました。4年もすると、ほとんど何も考えなくても3分前後で挿入可能な技術を身につけることができるようになりました。

自分ができるようになったら次は指導です。しかし、軸保持短縮法は身につけるのも大変なのですが、教えるのはさらに難しいものでした。

そんななか、ループ形成解除法の達人である鈴木康元先生に出会うことができ、新たな挿入法および効率的な研修法をお教えいただきました。軸保持短縮法では画面はよくみえないのに、右手の感覚的な要素が多くなります。一方、ループ形成解除法ではスコープ画面を大切にします。上級者と同じような画面をつくろうとするのです。

スコープ画面を大切にした指導法を採用して、研修に要する期間が飛躍的に短縮できました。はじめは5分前後で挿入する実力をつけるのに約6カ月かかっていましたが、3カ月、2カ月、1カ月間と徐々に短縮していったのです。まさに、私の研修速度の10倍以上の速さです。

こうして、手とり足とり教えるマンツーマン法で教える自信はつきました。そんなとき、「ブログを始めて好評なら、ブログ本を出版したらどうだ」と松島クリニックの鈴木康元先生にアドバイスをいただいたのです。そこで早速ブログを開始することになりました。活字だけではなく表現しきれないと思い、毎日自作の動画を駆使した解説を掲載しました。こうして、直接教えることのできない不特定多数の方への研修が開始されました。これがうまくいったら沖縄から北海道の端の先生まで教えることができる。私にとっては夢のような挑戦でした。

希望に満ちながらも不安いっぱい始めたのですが、何とブログをみているだけでTCSができるようになつたという信じられないようなコメントを多数いただくことができたのです。

1年後、毎日の連載は終了して整理の段階に入りました。読者の方々から「ぜひ本にして下さい」というコメントが寄せられました。そこで研修医向けの書籍発行に熱心に取り組まれている羊土社さんに飛び込みで出版をお願いしたところ、快諾していただいたのです。

いよいよ動画から活字によるレッスンへの挑戦です。しかし、言葉で表しにくい部分もあるのでDVDをつけて下さいとお願いしました。400日以上あるブログの記事と550本のビデオのなかから、内容を厳選して本書が完成したのです。

これまで指導してくださった先生方に感謝するとともに、1年間ブログを愛好していただき暖かく見守ってくれて、成長してくださった読者の方々に感謝いたします。そして最後に、この企画を採用していただき、制作に至るまで快く対応してくださった羊土社企画担当の鈴木美奈子様、制作担当の中林雄高様、小野寺真紀様、DVD制作担当の熊谷諭様に心から感謝いたします。

2011年7月吉日

仲道孝次